

今年度は第24回～第28回の学習会をおこなったところです。

第24回—「原発頼みは一炊の夢か」—福島県双葉町が陥った財政難—（葉上太郎・著）
 <「世界」（岩波）より抜粋>



第25回—「自然エネルギーの社会へ再起しよう」<飯田 哲也さん（環境エネルギー政策研究所・所長）と鎌仲ひとみさん（映画監督）の対談>

第26回—市民学習会「原発と自然エネルギーを考える」とドッキング。

第27回—連載シンポジウム「コ・ド・モ？」—見つけ直そう子どもの世界—その④「メディアがつくる子どもたち」最初のパネリスト・稲増龍夫（社会学者—法政大学教授）

第28回—連載シンポジウム「コ・ド・モ？」—見つけ直そう子どもの世界—その④「メディアがつくる子どもたち」2番目のパネリスト・本田和子さん（聖学院大学人文学部児童学科教授）

前半は原発関係の学習、後半は「子どもとメディア」関係の学習でした。原発に関しては、葉上太郎さんの書いた莫大な原発交付金による箱物行政で財政難に陥った福島県双葉町の例は、これからの自治体のあり方を考え

させるものであった。また鎌仲ひとみさんと飯田哲也さんの対談では、飯田さんがずばり原発の限界を指摘してくれました。安全を確保するためには経済的観点で引き合わないこと、事故によるすさまじい損害、原発は40年を経過したものが多くの一気に減ってゆくこと、自然エネルギーという非常に有効な選択肢があることなどです。また鎌仲さんは、彼女の映画作品で描いたように、自然エネルギーの可能性を提示してくれました。

シンポジウムでは、稲垣さんが資料をもとに子どもを肯定的にとらえ、情報大衆化時代をどう楽しむべきかを、本田さんは「教える—教えられる」という関係を結びにくい時代の中で、新たな関係づくりの必要性を強調していました。

学習する中で、改めてメディアと民主主義の問題に突き当たっています。また原発問題では、我々のものの考え方、生活全般の見直しが迫られていることをひしひしと感じています。それだけに長いこと“騙されて”きた国民として、メディアの問題に一層こだわってゆきたいと思います。

■ 次回の学習会 ■

実践報告： 「私のNIE」

時 2月4日（土）
 13：30～

所 教育会館1階B会議室

報告 大山 仁さん（吉井高校）

※ NIE は Newspaper In Education（教育に新聞を）の略。この実践は、国語の授業で新聞の「声」欄を教材にしたものです。

（文責：平井 敏久）